

菊陽人 りさーち



「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。

注) 掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。



りゅう ももか
笠 百伽さん (10歳)
[光団地]

- **趣味**
絵を描くのが好き
- **将来の夢**
洋服のデザイナー
- **自慢**
髪の毛がクルクル
- **みんなに伝えたいこと**
ずっと幸せでいたいです

さん (歳)
[]

- **趣味**
ピアノ
- **将来の夢**
パティシエール
- **自慢**
ピアノが得意
- **家族へのお願い**
ハムスターを飼いたい!

人権のひろば

子どもの目、子どもの声
人権
作文シリーズ
【No.17】

つつい出やすいかげ口ですが、「かげ口を言っても・・・解決はしない」ばかりか、かげ口には差別や偏見が入り込みやすいものです。自分の行動を冷静に見つめ、豊かな関係に変えていく行動を選択する二人の作者の成長が楽しみです。
*作者の学年は前年度の在籍学年となります。

問い合わせ
人権教育・啓発課
☎232-2113

お母さんへの手紙

菊陽中部小学校4年 山下 舞

お母さん、お手紙ごともありがとうございます。手紙を読んで、お母さんの願いがわかりました。

手紙に、「自分に負けない人になつてほしい」と書いてあったけれど、まだまだ自分に負けない心になっていないと思います。わけは、わたしは人に注意することがあまりできていません。注意をしたいとは思っているけれど、注意したら、相手に強く言いかえされそうだからです。また、いやなことをされたら、「やめて。」と言えずにがまんしてしまいます。だから、そういう時に友だちとときどきかげ口を言っています。でも、かげ口を言っても、相手がいやな気持ちをするだけで、解決はしないと思います。だから、わたしは、いやなことをされたら、きちんと「やめて。」と言えるようになりたいです。友だちに注意するだけでなく、やさしくしてあげたり、友だちが困っていたら、助けてあげたりしたいです。注意をするときは、強く言わずに、やさしく「いいよ。」と言いたいです。これまで、友だちとけんかをしたら、なかなかあやまらないで、相手がたいてきたら、自分



▲笑顔がいっぱい!

もたたかえしていました。相手が一回たたいてきたら、二回たたき返したことがあります。だから、ちゃんとあやまって仲よくしたいです。

わたしは、お母さんとお父さんのことをそんけいしています。お母さんは、いつも朝、わたしを起こしてくれたり、朝ご飯を作ってくれたりします。わたしを見送った後、せんとくをしたり、冬にうちにくる、蘇陽のおばあちゃんのお世話をしたり、わたしが帰ってきたら、ご飯のじゅんびをしたりして、がんばっています。少しがげ気味の時も、休まず家事をしています。

お父さんは、夜にお仕事をするからお昼とかは、部屋でねているけれど、夜になると、ご飯を食べて、お風呂に入って、お仕事にいくじゅんびをして、お仕事にいきます。お父さんの仕事は、トラックに乗って大分や福岡へ行く仕事です。そして、朝に帰ってきます。ときどき、わたしが起きる前に帰ってくることもあります。

わたしのしょうらいのゆめは、お母さんやお父さんに心配をかけないよう人になることです。お父さん、お母さん、ここまで育ててくれてありがとうございます。

つたえてよかったよ

菊陽西小学校1年 はた中はじめ

休みじかんにおにごっこをしたとき、じろうさんが、おにをじゃんけんでき

めずに、「たろうさんがおに。」でいつにげていました。たろうさんは、いつも「おに。」でいわれていました。たろうさんは、つかれていて、こ



▲やった!

せいやさんが「たろうさんがいつもおにになっていてきつそうだったから、このまえおにをこうたいして、ぼくがおにになりました。でも、じろうさんには、なにもいえませんでした。」といつてくれました。まさひこさんが「一人でいえないときは、二人か三人でいえばいいよ。」といつてくれました。みんなではなしあつて、たろうさんの気もちに、じろうさんが気づいてくれたからよかったとおもいます。たろうさんは、うれしかったとおもいます。こんどから、みんなでじゃんけんでおにをきめます。これからも、じぶんのおもったことをみんなにいつていきたいです。

きくよう文芸

菊陽句会報

| | | | |
|-----------------|-------|-----------------|-------|
| 阿蘇路いま匂い重たく栗の咲く | 坂本百合子 | サングラス掛けたる人に近寄れず | 吉野 早苗 |
| 早乙女のけだし濡らすも神の水 | 田中 郁子 | 遠き日の雨の思いでカンナ咲く | 川口 豊子 |
| 梅熟るる頃や祭りの稽古笛 | 村田 正三 | 風鈴の駅や乗客皆馴染み | 井上久美子 |
| ひと呼吸間をおく父の敗戦忌 | 井 子文 | 大家族次々に咲く茄子の花 | 宮川ユキエ |
| ドクダミの匂いも束ね軒の下 | 財津 早雪 | 月見草初の一花の庭明かり | 日高 妙子 |
| さくらんぼます店頭に美しき色 | 原野レイ子 | 闇の壁よりほつと螢の灯 | 曾我 育代 |
| 葉桜や気分爽快阿蘇五岳 | 西村ひとえ | 波蹴立て出でゆく袖サングラス | 紫藤 祥子 |
| 扇ぐ手に愛を送りて泣団扇 | カ 幸子 | 職引きて心のゆとり団扇手に | 村上 朋子 |
| 朦朧と天空にあり梅雨の月 | 寺尾千代子 | キャベツ畑今朝も幾許蝶の舞ひ | 合志 重子 |
| 盗掘に悲しきしらべ翁草 | 高橋 孝子 | 緑陰に寛ぐ小晝庭日和 | 野口 令史 |
| 下校して玉蜀黍にかぶりつく | 佐藤 航 | 予期せざる人生ですな蝸牛 | 松橋 強 |
| 池の中しっぽのついた蛙みた | 佐藤 健 | 花合歓の微笑の瞳も雨匂ふ | 佐藤 澄世 |
| お土産のメロンまだまだ眺めおり | 佐藤 節 | この老に踊れ踊れと蟬時雨 | 三島 一路 |

短歌会

木犀の下過ぎ行けばたちまちに蝉とびたちて庭静かなり
一輪の濃き紅薔薇は鮮やかに我がひとり住む部屋に明るし
波飛沫あげて白きボートは我が乗れる遊覧船を追い越してゆく
濁流は車を一気に押し流すテレビに見つつ水は恐ろし
雨やみて夜霧にかすむマンションの窓々に淡く明り点りぬ
孫たちと手に手を取りて登りしを幸せ祈り三千余段

今村 貞子
岡本まさえ
菊川あさみ
下田 久子
森 敦子
東 廣喜